



飯野みゆき
副院長・看護局長

向上が欠かせない」と話す。中でも病棟を管理する看護師長の管理能力がキーになるとして、看護師長の管理教育に力を注ぐ。

全国的な看護師不足の中、同病院看護師の離職率は10%以下で全国平均を下

やまし医療

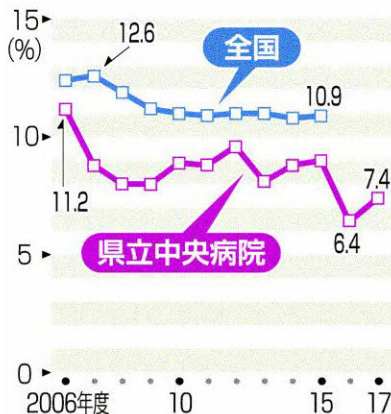
最前線

県立中央病院から

〈150〉

県立中央病院で働く職員の約6割を占める看護職員。看護師と看護補助者計681人（4月1日現在）を統括する看護局長で認定看護管理者の飯野みゆき副院長は「県の基幹病院、高度急性期病院の役割を果たしていくためには看護の質

正規看護師の離職率



回る。飯野副院長によると、時間外勤務の削減や、新人の実習環境の充実をはじめ、看護師2人一組で複数の患者を担当するパートナーシップナースングシステム(PNS)を導入。働きやすい職場環境を整えることで離職防止に努めている。

さらに「看護師長として、患者さん、看護職員はもちろん、他職種からの信頼を得るためには、看護の知識や技術に加え、内省力や謙虚さ、柔軟性、公平性、思いやりなど人間性のスキルが求められる」と飯野副院長は話す。昨年度から、看護師長が自己変革するための管理者研修を4回実施。

看護師長の研修強化 人間性豊かな人材育成

本年度は「評価ツール」を活用し研修を強化する。また看護師長にもPNSを導入し、パートナーで個人の強みや弱みを高め、補い合い、管理能力を上げていくという。

飯野副院長は就任した4月、看護職員に対し看護局の理念や目標を改めて明言。可視化することで「看護師としてあるべき姿」を示した。看護師自身もキャリアアップのための目標を立て、達成に向けた具体策を実践。看護師長や看護局長が面接を行い、目標達成を評価していく。一人一人の能力アップを図り、患者の満足度向上や、「早くきれいに治す」をモットーとする同病院の目標達成につなげたい考えた。

飯野副院長は「二人一人と丁寧に向き合い、自分の力を信じて、誇りを持って働く人間性豊かな看護師を育成していきたい」と話している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します